

平成 27 年 10 月 6 日
在ブリスベン日本国総領事館

～安全対策情報～

10月2日から3日にかけて、バングラデシュにおいて邦人男性がけん銃で撃たれて殺害されたほか、シドニーでは、警察職員が銃で撃たれて殺害されました。いずれもテロの可能性が指摘されています。当地においては、現在のところテロに関する具体的脅威はありませんが、「I S I L（イラク・レバントのイスラム国）」はかねてから日本を標的とした発言を続けており、被害に遭わないよう十分注意する必要があります。

1. バングラデシュにおける邦人殺害事件の発生

- (1) 10月3日午前（現地時間）、バングラデシュ北西部のロングプール県（首都ダッカから約300キロ）において、リキシャに乗車していた日本人男性が、オートバイに乗った者らにけん銃で撃たれ、殺害されました。
- (2) 事件後、「I S I Lバングラデシュ」を名乗る組織が犯行声明を発出し、イスラム諸国における外国人に対するさらなる攻撃の可能性を示唆しています。

2. シドニーにおける警察職員殺害事件の発生

- (1) 10月2日夕、シドニー郊外にあるニューサウスウェールズ州警察本部において、同本部に勤務する警察職員が男にけん銃で撃たれ、殺害されました。
- (2) 容疑者はイラン出身のクルド人系の少年（15歳）で、銃撃戦の末、射殺されました。犯行時、黒い衣装をまとい、「アラー（神）」など宗教的なスローガンを叫んでいた模様です。
- (3) 動機や共犯者の有無等は捜査中ですが、ターンブル首相は、「テロ行為とみられる」とコメントするなど、政治的動機に基づくテロ事件との見方が広がっています。

3. 情勢と対策

I S I Lは本年1月から2月にかけて、シリアにおいて湯川遙菜氏及び後藤健二氏を殺害したとみられる動画を発出したほか、本年9月には、I S I Lの機関誌において、インドネシア、マレーシア及びボスニア・ヘルツェゴビナの日本大使館等を標的に挙げ、攻撃を呼びかけております。

当地におきましては、現在のところテロに関する具体的脅威には接していませんが、こうしたI S I Lの動向及び今回の事件を踏まえまして、皆様には、誘拐、脅迫、テロ等の不測の事態に巻き込まれることのないよう、外務省の海外安全情報及び報道等により最新の情報を入手するとともに、外出時には周囲の状況に十分注意して行動するよう心がけて下さい。